

---

# 地域循環共生圏とは何か？ 期待される企業経営の変革

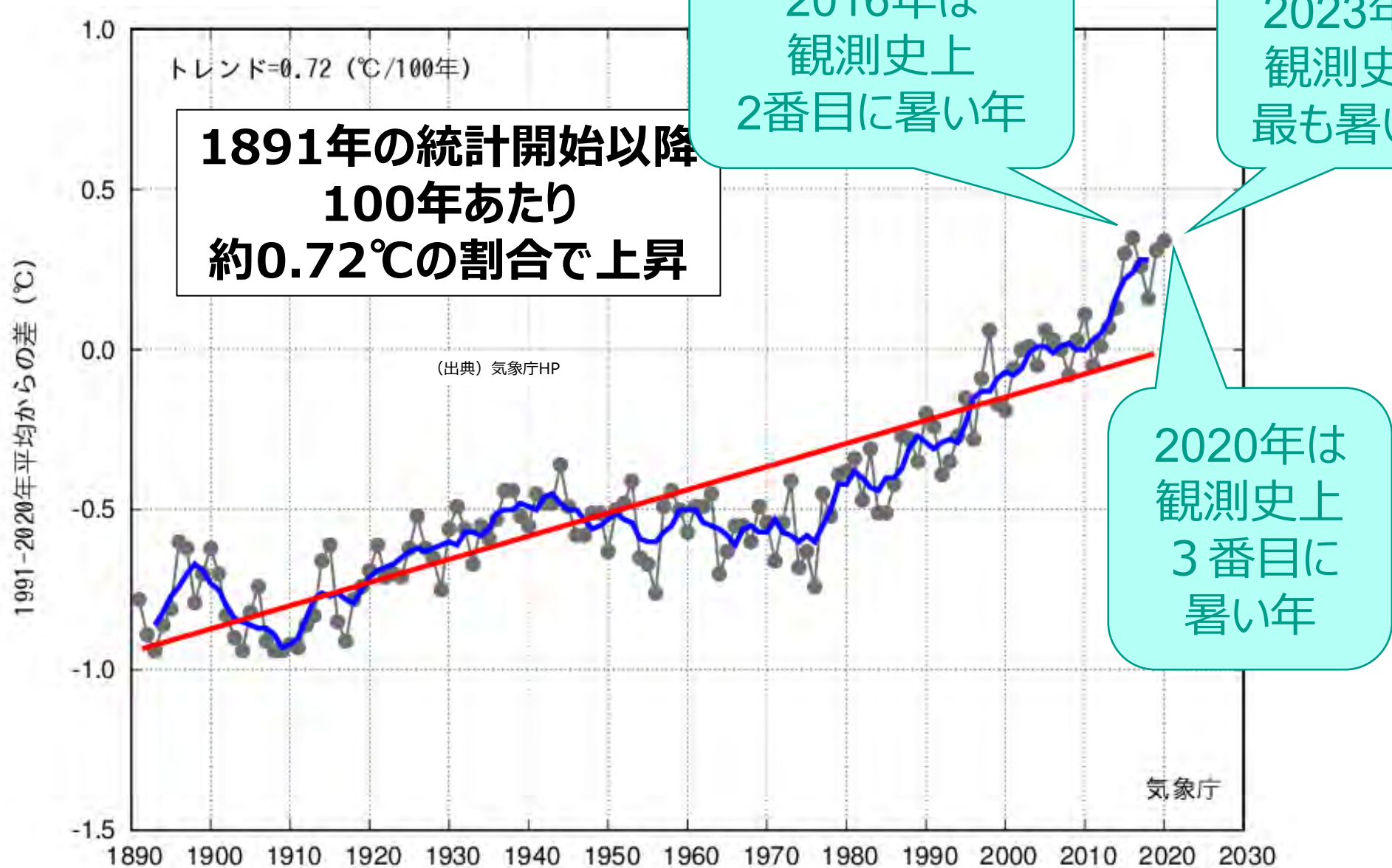
---

2024年2月2日  
前環境事務次官 中井 徳太郎

---

# 1. 気候変動等を巡る状況

---



# 日本での豪雨や台風による風水害の激甚化



## 平成30年 台風21号

非常に強い勢力で四国・関西地域に上陸。  
大阪府田尻町関空島（関西空港）では最大風速46.5メートル  
大阪府大阪市で最高潮位 329cm

## 令和元年 台風15号

強い勢力で東京湾を進み、千葉県に上陸。  
千葉県千葉市 最大風速35.9メートル 最大瞬間風速57.5メートル

## 令和元年 台風19号

大型で強い勢力で関東地域に上陸。箱根町では、総雨量が1000ミリを超える。

気象庁「1980年以降、また、工業化以降(1850年以降)の  
気温及び海面水温の上昇が、総降水量のそれぞれ約11%、約14%の  
増加に寄与したと見積られる。」(気象研 川瀬ら 2020)

## 令和2年 7月豪雨

活発な梅雨前線が長期間停滞し、西日本から東日本の広い範囲で記録的な大雨。

## 令和4年 台風14号

大型で非常に強い勢力を保ったまま鹿児島県に上陸。九州を中心に西日本から北日本の広い範囲で暴風となったほか、高潮による被害も発生。九州や四国地方では、期間総降水量が9月1か月の平年値の2倍前後となった地点もあった。

## 令和5年 梅雨期の大雨

6月初めは梅雨前線が本州付近に停滞し、東・西日本の太平洋側で線状降水帯が相次いで発生。  
167地点で24時間降水量が6月としての1位を更新。  
6月末以降は、活発な前線の活動の影響で西日本を中心に各地で線状降水帯が発生。

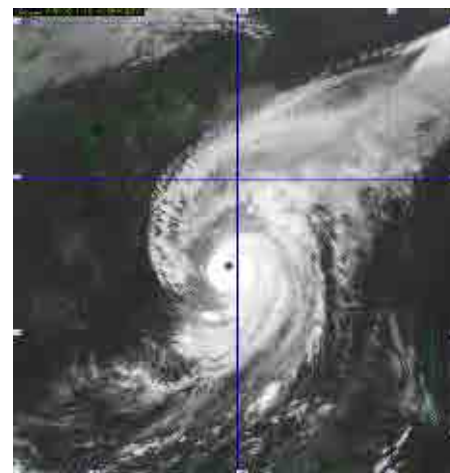
**今後、気候変動により大雨や台風のリスク増加の懸念  
激甚化する災害に、今から備える必要**



広島県広島市安佐北区  
(写真提供：広島県砂防課)



H30台風21号  
大阪府咲洲庁舎周辺の車両被害



令和元年台風19号  
(ひまわり8号赤外画像、気象庁提供)

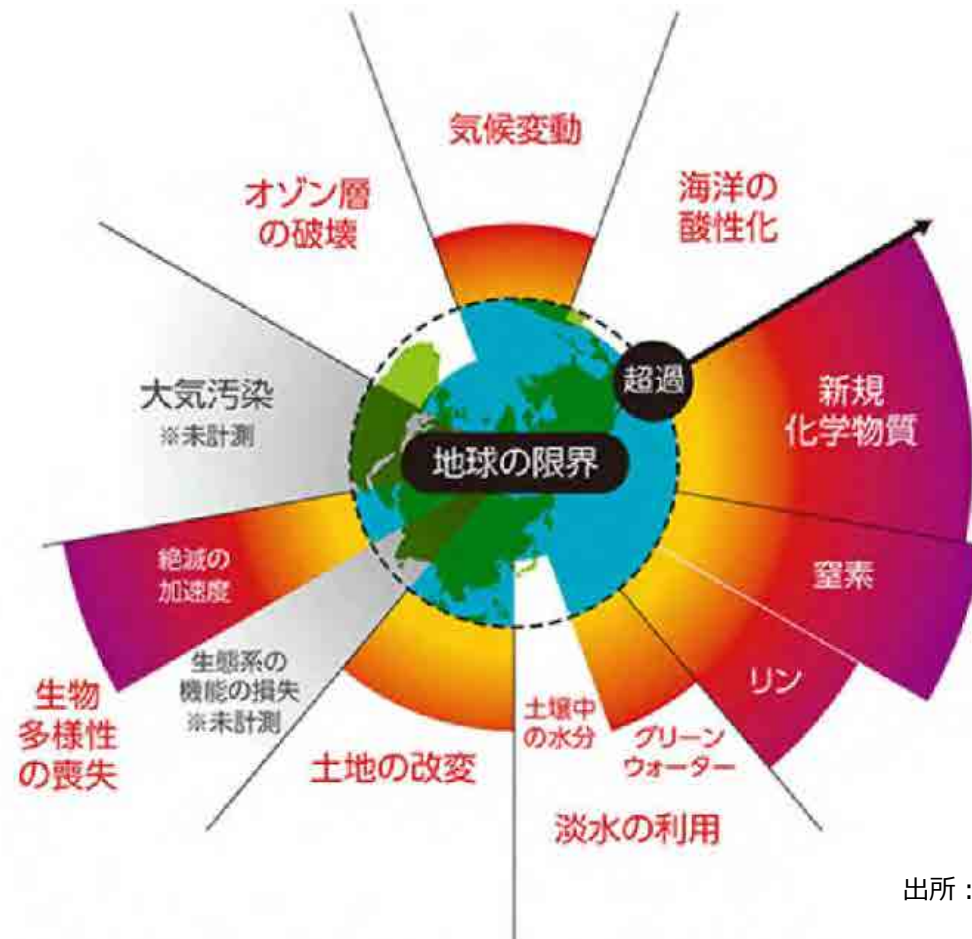


令和2年7月豪雨  
大分県日田市の流された橋

※ 平成30年7月豪雨及び令和元年台風19号を除き、これらの災害への気候変動の寄与を定量的に示す報告は現時点では無いが、気候変動により将来強い台風の割合が増加する等の予測がある

# 地球の限界（プラネタリー・バウンダリー）

- 人間活動に伴う地球環境の悪化はますます深刻となり、地球の生命維持システムは存続の危機
- 2015年と2022年の研究結果を比べると、種の絶滅の速度と窒素・リンの循環に加え、新たに気候変動と土地利用変化、新規化学物質が不確実性の領域を超えて高リスクの領域にある



出所：2023環境白書

資料：Stockholm Resilience Centre (2022) より環境省作成

# その原因は、人間生活、経済・社会システム

- 企業活動や、企業とつながり、モノやサービスを購入し生活している私たちの毎日の活動が地球環境に影響
- 経済社会のリデザイン = 再設計が必要

## 地下資源の活用

大量発注・大量生産  
大量消費・大量廃棄

経済優先

## 地上資源の活用

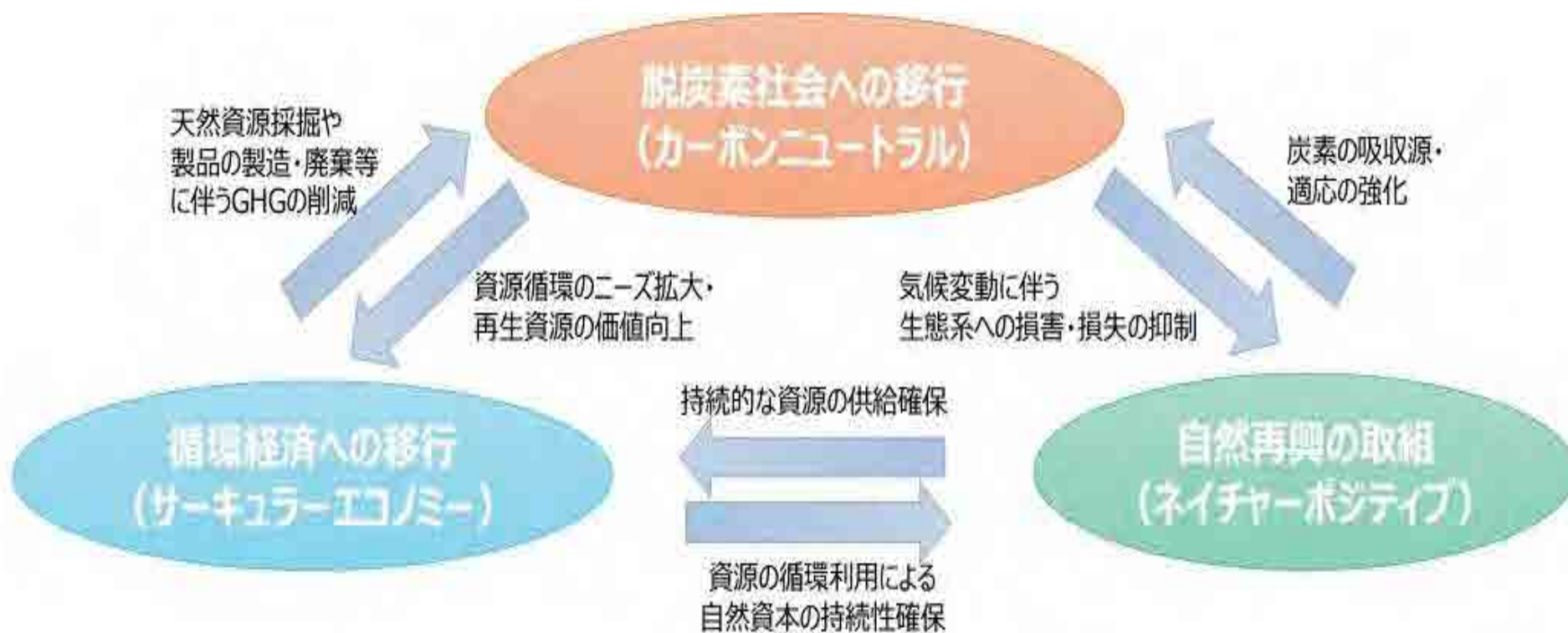
(再生可能エネルギー、自然資本など)

適量発注・適量生産  
適量購入・循環利用

環境・社会・経済  
の調和 = SDGs

# 複雑に絡み合っている地域と環境の課題。統合的な取組が必要

- 脱炭素、資源循環、自然共生といった環境課題3要素をだけでも、**シナジーとトレードオフ**が存在。**地域の社会・経済課題も併せて、縦割りを超えて取り組むことが肝要。**



出典：第六次環境基本計画に向けた基本的事項に関する検討会 第2回資料：環境・経済・社会の状況と環境政策の展開の方向について（2023、環境省）

---

## 2. 地域循環共生圏への発展 ーローカルSDGsー

---



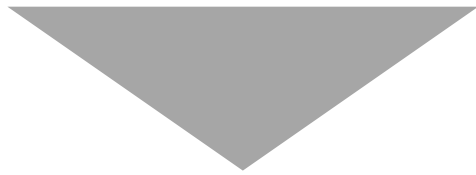
# 地域には課題が山積

少子化、高齢化、空き家、シャッター街、水産資源の減少、一次産業従事者の減少・後継者不足、観光消費額が少ない、観光地の交通渋滞、頻発する自然災害、気候変動、耕作放棄地、人口減少、森林の管理不足、不法投棄、商店街再生、観光客の減少、地域経済の疲弊、地域コミュニティの存続危機、伝統文化・技術の継承、出産・子育て環境、女性の活躍、地域に裨益しない再エネの導入、廃校、観光地の廃屋増加、買い物難民、観光2次交通、里山の荒廃、有害鳥獣対策、生物多様性保全、オーバーツーリズム・・・

(地域循環共生圏のモデル事業の応募用紙から一部を抽出)

さらに、  
課題は増え続ける

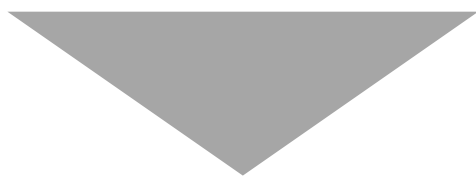
# 持続可能な地域とは？



## 自立した地域

自ら課題を解決し続け  
地域づくりを持続できる地域

# 課題解決の手段は？



## ローカルSDGs事業

環境・社会・地域経済の課題を  
同時解決する事業

## 地域循環共生圏とは、

- **第5次環境基本計画（2018年4月閣議決定）**にはじめて位置づけられた概念。
- 地域資源を活用して**環境・経済・社会を良くしていく事業**（ローカルSDGs事業）を生み出し続けることで**地域課題を解決し続け、自立した地域をつくる**とともに、地域の個性を活かして地域同士が支え合うネットワークを形成する「自立・分散型社会」を示す考え方。
- その際、私たちの暮らしが、森里川海のつながりからもたらされる自然資源を含めて地上資源を主体として成り立つようにしていくために、これらの資源を持続可能な形で活用し、自然資本を維持・回復・充実していくことが前提となる。
- 地域の主体性を基本として、パートナーシップのもとで、地域が抱える環境・社会・経済課題を統合的に解決していくことから、ローカルSDGsとも言う。



# 「地域循環共生圏」の概念

- **人間** = 細胞・組織が自立・分散して機能



- **SDGs** = No one will be left behind. 誰も取り残さない（あらゆる個人が活躍）



資料：国連広報センター

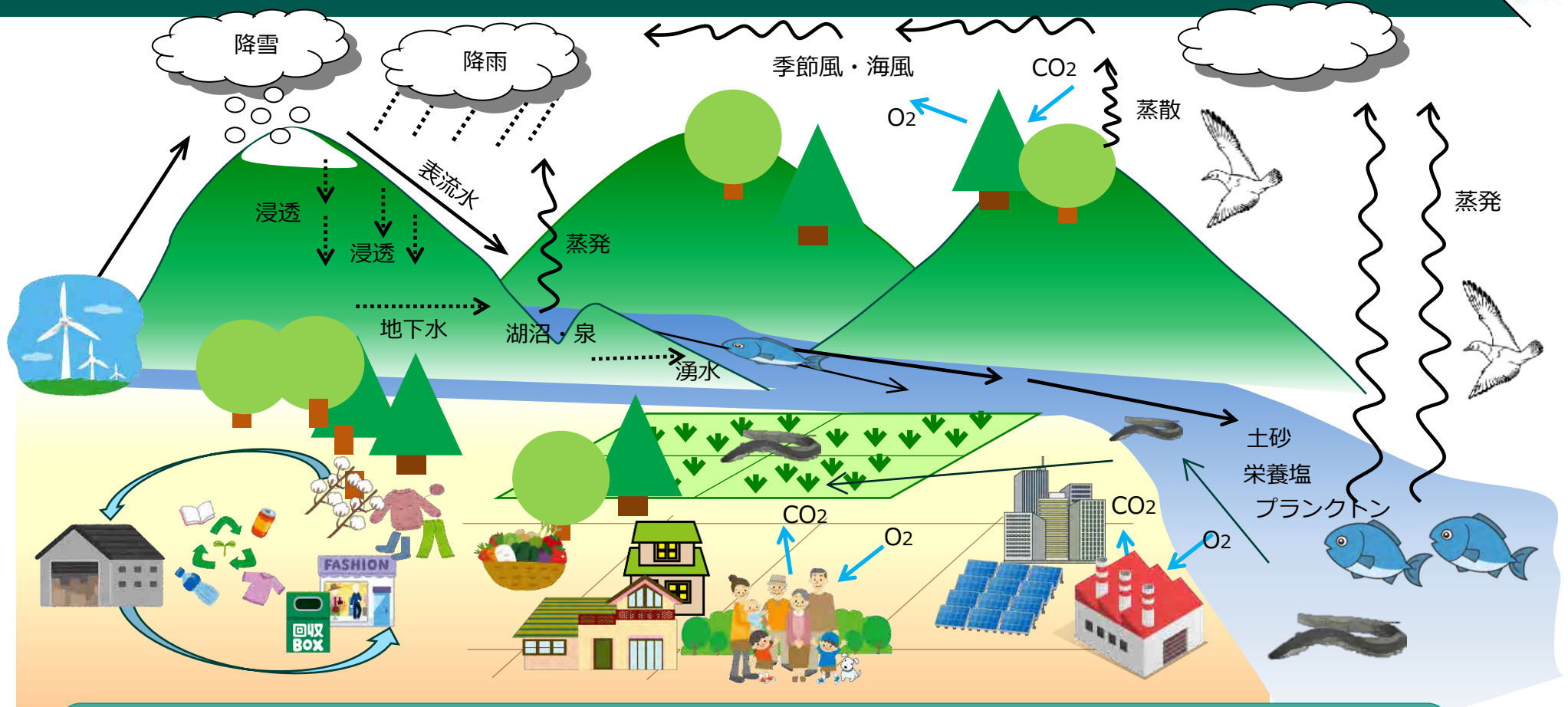
- **地域循環共生圏** = 持続する「自立」する地域が、相互に連携し機能する。



地域の特性、地域資源の性質に応じ、**最適な規模で地域資源が循環**する。

- 狭い地域での循環に適した資源  
⇒ コミュニティや自治体レベルの小さな領域で循環
- 広い地域での循環に適した資源  
⇒ 河川流域、都道府県、国など地域を越えたより広い領域での循環

# 森里川海のつながりが生み出す恵みと資源の循環利用



## 森・里・川・海の水・物質循環が生み出す資源（生態系サービス） 地上で既に使用されている地下資源

- 清く豊かな水、清浄な空気、土壌の保全、気候の安定、安全で美味しい食材、地域特産品、地域の自然に根ざした文化、再生可能エネルギー（太陽光・風力・水力・バイオマス）、木材、竹等森林資源等
- 既に地上において使用されている金属資源、プラスチック等

# 地域循環共生圏（ローカルSDGs）の三原則

## 環境・社会・経済課題の同時解決



### 地域の 主体性

(オーナーシップ)

地域の人が、**ワクワク感とやりがい**を大切にしながら、主体的に事業を立ち上げ、運営している

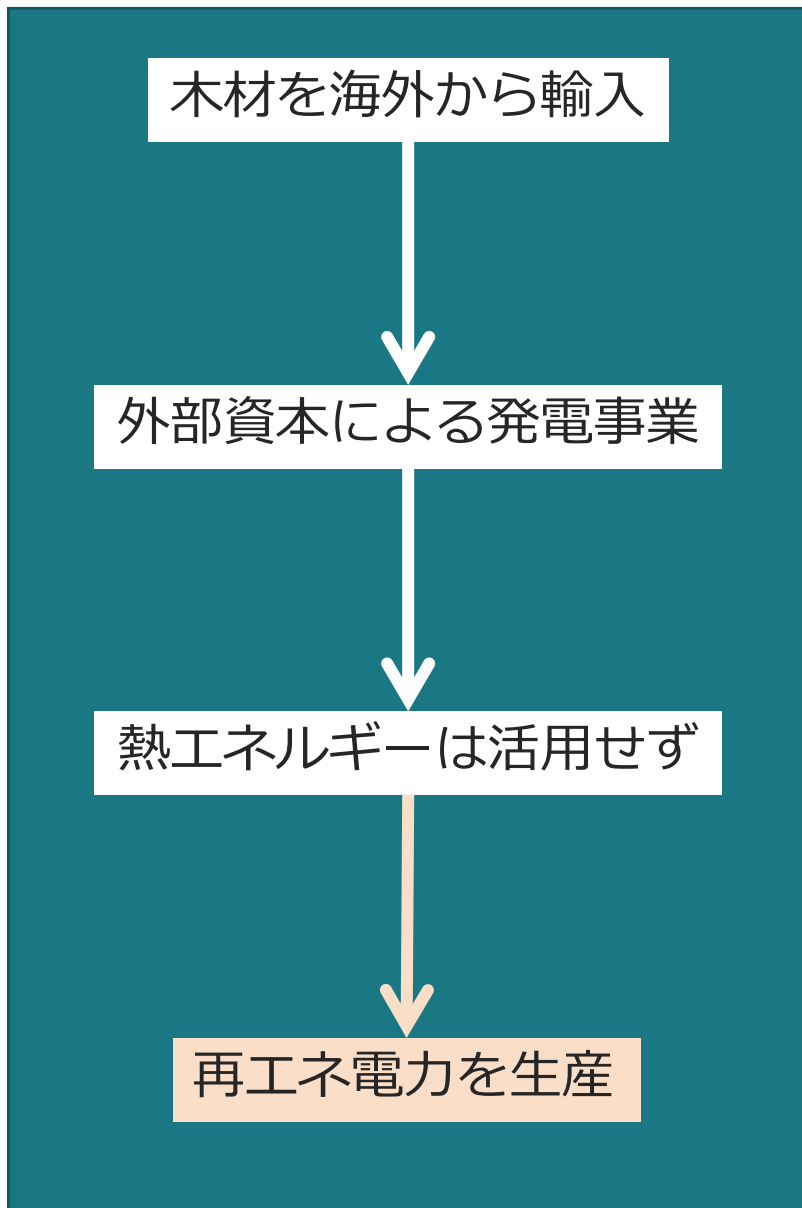
### 協働

(パートナーシップ)

地域内の多様な分野の人による協働、**地域外**の人とのつながり・支えあいによって、事業を立ち上げ、運営している

# 地域循環共生圏の特徴 木質バイオマスによる再生可能エネルギーを例に

## 【従来の視点】



長距離輸送でCO2排出  
輸入元の森林は持続可能に運営されているか？

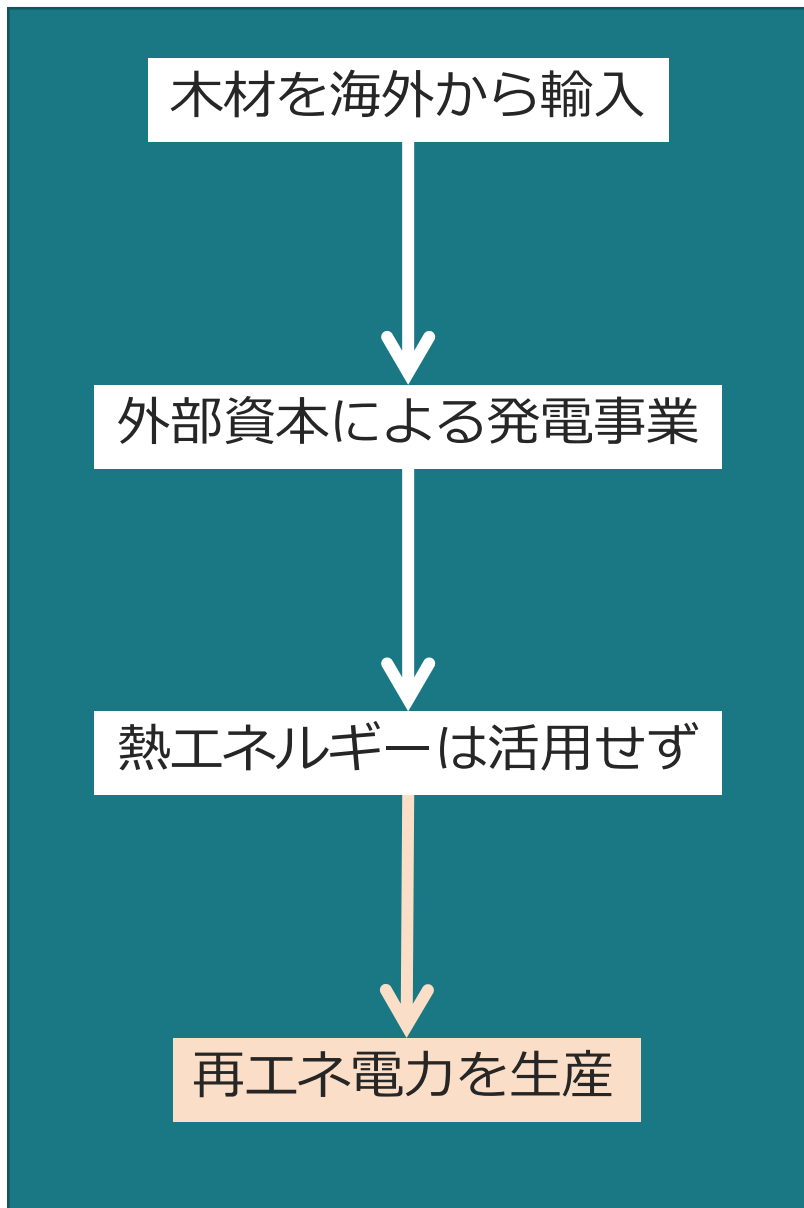
収益の多くは地域外に流出

木質バイオマスは7割が熱エネルギー



# 地域循環共生圏の特徴 木質バイオマスによる再生可能エネルギーを例に

【従来の視点】



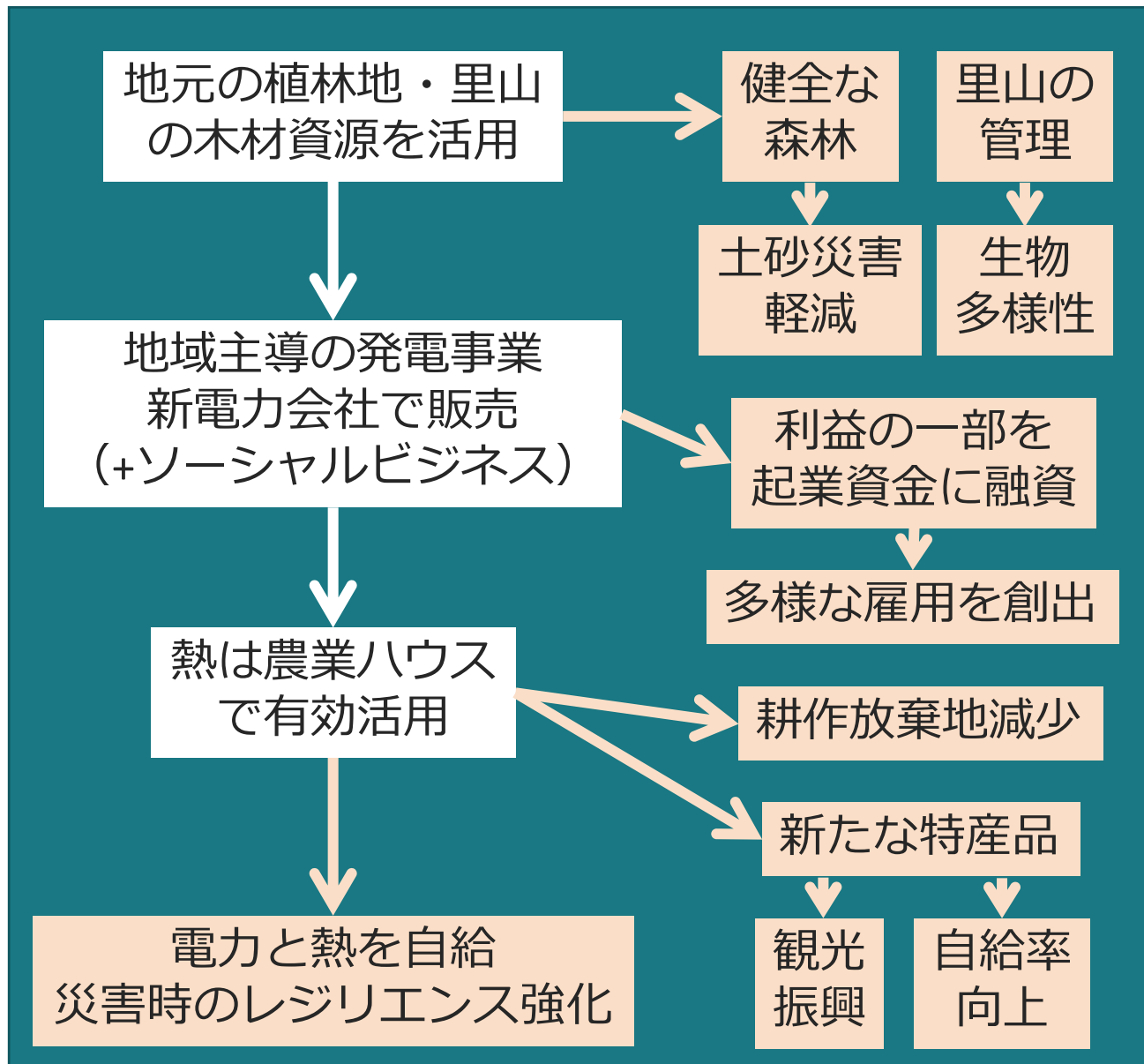
再エネは  
できたけど  
地域が元気に  
ならない

# 地域循環共生圏の特徴 木質バイオマスによる再生可能エネルギーを例に

## 【従来の視点】



## 【地域循環共生圏の視点】



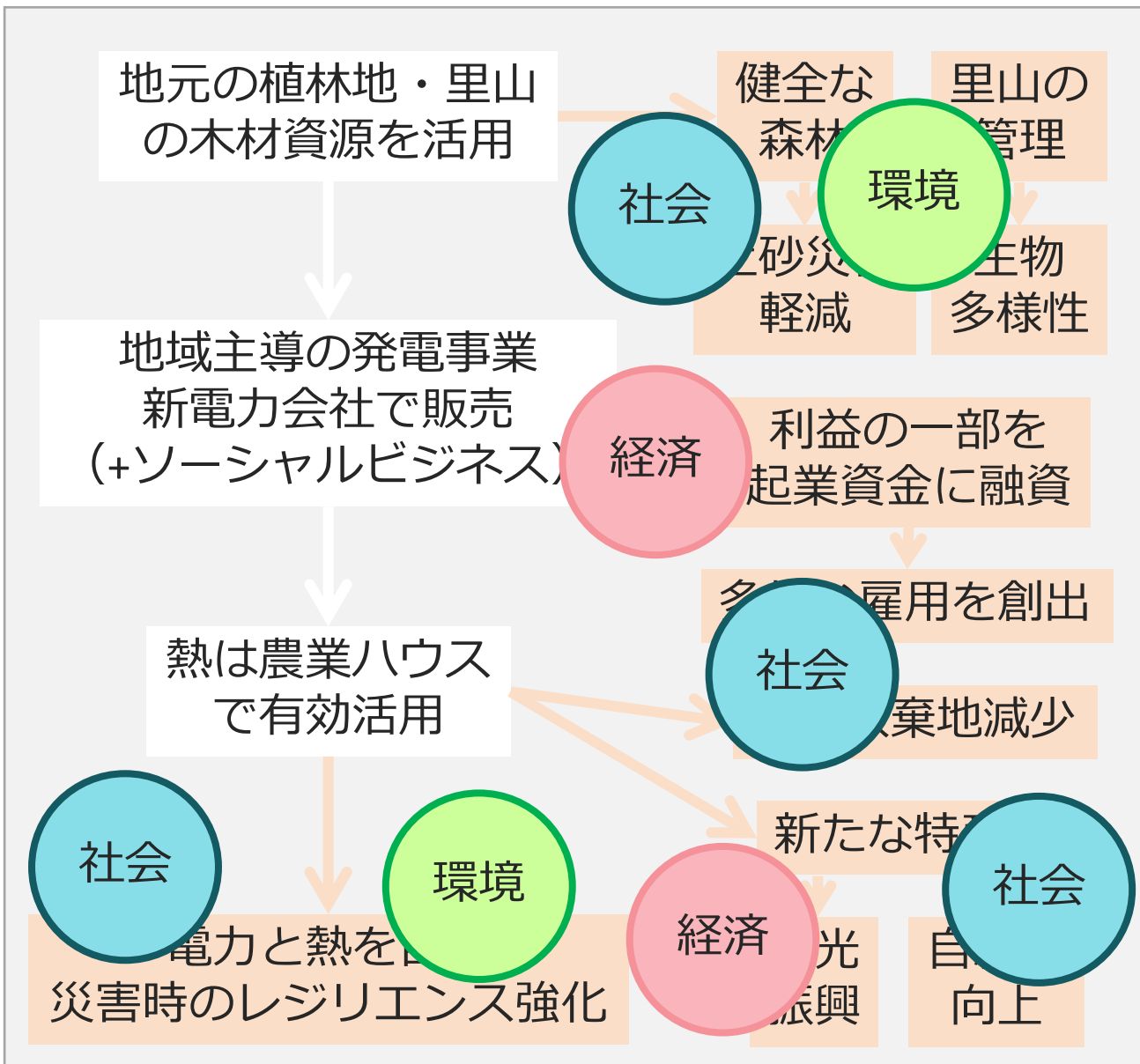
# 地域循環共生圏の特徴 木質バイオマスによる再生可能エネルギーを例に

【従来の視点】

**同時  
解決!**

再エネ電力を生産

【地域循環共生圏の視点】



# 地域循環共生圏の事例

## 真庭市（岡山県）

- 木質バイオマス発電・熱利用による林業活性化では、間伐材や林地残材、端材のみならず、広葉樹も活用。生物多様性保全や山林の多面的機能の発揮も期待
- 生ごみ等によるバイオガス発電と液肥の活用や、瀬戸内海の牡蠣殻を肥料とした「真庭里海米」の生産と学校でのSDGs教育への活用
- 草原再生・維持管理のための山焼きをエコツーリズムとして実施し、生物多様性と国立公園の景観を保全。ススキをかやぶき屋根の材料として出荷し、農家の副収入に
- 市内の多くのサステナブルコンテンツを阪急阪神百貨店と協働でブランド化（GREENable）し、都市と農村の交流を促進



木質バイオマス発電施設 真庭里海米と瀬戸内海の牡蠣殻 バイオガス発電施設と液肥

ローカルSDGs事業  
を次々と実装



広葉樹林の発電への活用 草原再生のための山焼き GREENable HIRUZEN(発信拠点)

# 地域循環共生圏づくりのプロセス

地域プラットフォーム

=

事業を生み出し  
続ける仕組み

## 【自立分散型社会】

次々と事業を生み出し  
続け、課題を解決し続ける  
「自立した地域」に

地域プラットフォーム同士が  
繋がり、「分散型のネット  
ワーク」を構築

## 【事業を考える・生み出す】

ローカルSDGs事業を考えると  
ともに、事業実施主体を  
発掘し、実施主体が事業を  
実施するのを応援する

## 【体制を整える】

地域プラットフォームの  
機能や役割を整理し、  
事務局機能を設ける

## 【地域のビジョンを描く】

地域の資源や課題とビ  
ジョンの構造を明確化し、  
地域のコンセプトを描く

## 【仲間を探す】

地域の人のお話を聞  
きに行くことで仲間  
をつくり、地域課題  
や資源を発掘する

環境・社会・経済課題の同時解決

協働（パートナーシップ）

地域の主体性（オーナーシップ）

# 環境省ローカルSDGs 地域循環共生圏づくりプラットフォーム

先進事例

共生圏づくり  
の手引き

モデル地域  
の取組み

地域を応援したい企  
業との出会い



地域循環共生圏WEBサイト  
<http://chiikijunkan.env.go.jp/>

共生圏づくりを  
進める地域の  
紹介

入り口は  
メルマガ登録！

セミナーやフォーラム、シンポジウムなど、  
学びの機会、仲間作りの場のご案内

情報発信

- ・メールマガジン
- ・フェイスブック



---

## 3. 企業の脱炭素経営も 共生圏の考え方で

---

# 地域の活性化をカーボンニュートラルで



環境配慮型栽培ハウスのイメージ

## 地域ビジネス 創生

新しい雇用、再エネによる  
地域経済活性化

地域資源である再生エネ（太陽光、風力、バイオマス）など最大限導入

分散型エネルギーシステム（再エネ+蓄電池などで自給自足）

## 快適な 暮らし

電力料金の節約、安全安心な暮らし（ヒートショックや熱中症予防）、地域の足の確保

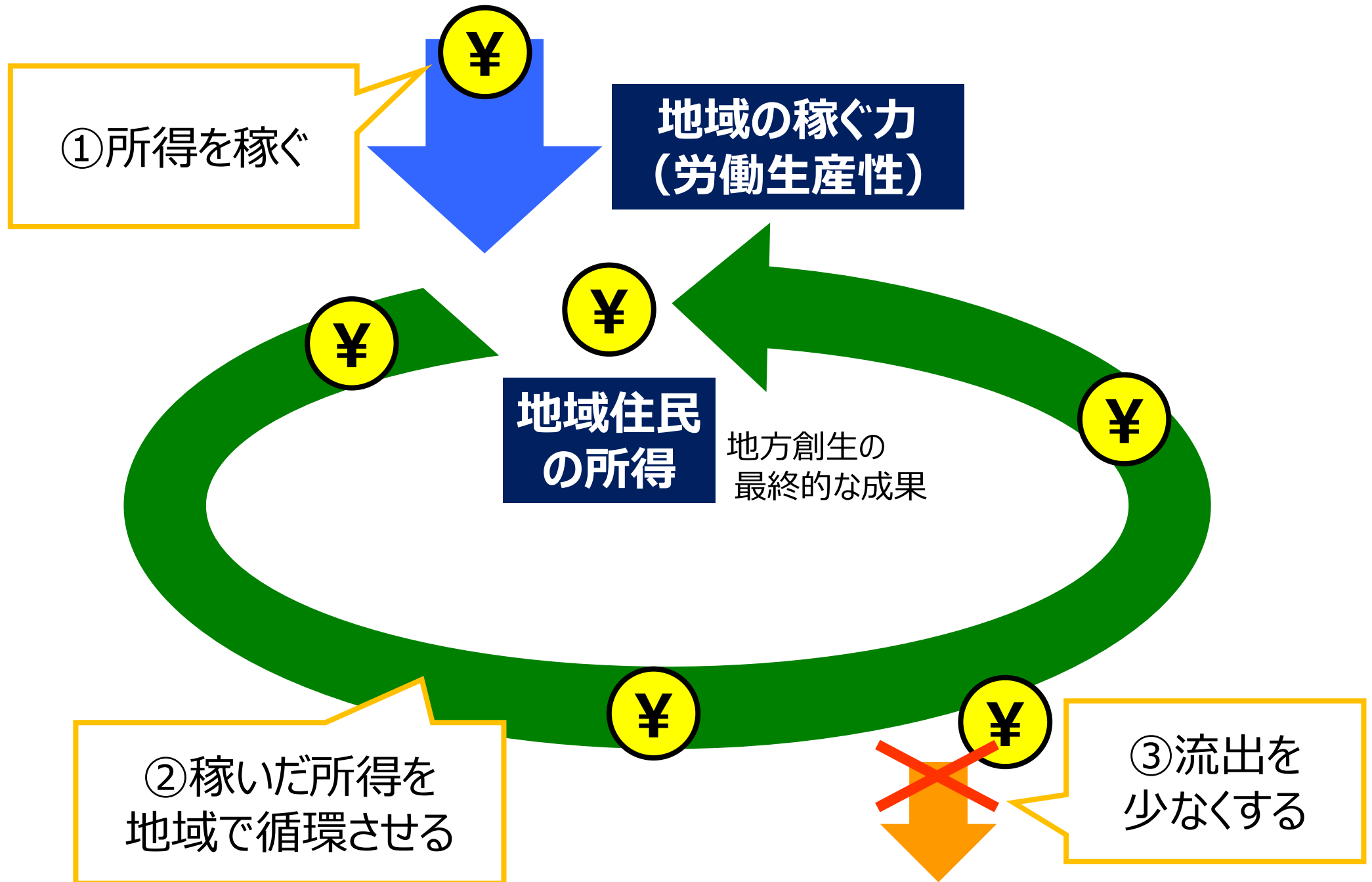
## 災害時も 安心

台風・地震等で  
停電しない  
地域づくり

脱炭素も地域循環共生圏の考え方で進めることが重要



# 地域の経済循環構造 = 地域循環共生圏の経済側面



②稼いだ所得を  
地域で循環させる

5つのポイントを可能な限り  
事業計画に取り込むことで、  
地域が元気になる

- ①地域の資本、地域の雇用
- ②利益の社会的投資
- ③地域資源の活用（未利用資源、熱等の副産物など）
- ④地域事業者による施設整備・維持管理
- ⑤地産地消（再エネ、食など）

詳しくは「地域経済循環分析」

<https://www.env.go.jp/policy/circulation/>



# グローバル経済リーダーの認識



## ■ダボス会議のグローバルリスク報告書2023

次の10年で世界レベルで最も深刻なリスク



■ 経済 ■ 環境 ■ 地形学 ■ 社会学 ■ 技術

「今ほど変化のペースが速い時代は過去になかった。だが今後、今ほど変化が遅い時代も二度とこないだろう。」  
カナダ・トルドー首相（2019年ダボス会議にて）

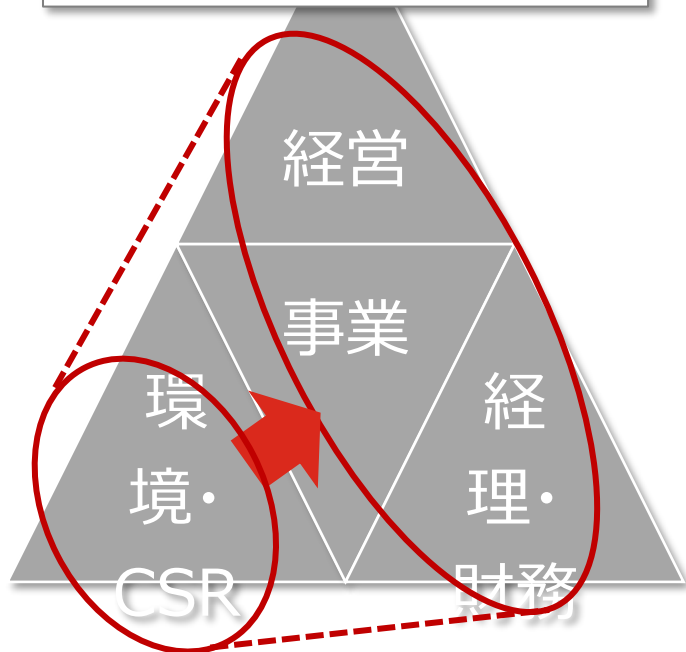
「温暖化の時代は終わり、地球が沸騰する時代がきた。」  
「異常気象がニューノーマルになってしまっている。」  
グテレス国連事務総長（2023年7月WMO公表データを受け）

(出所) World Economic Forum Global Risks Perception Survey 2021-2022

# 脱炭素経営に取り組む企業増加

- 脱炭素経営とは、**気候変動対策（≒脱炭素）の視点を織り込んだ企業経営**のこと。
- 従来、企業の気候変動対策は、あくまでCSR活動の一環として行われることが多かったが、近年では、**気候変動対策が企業にとって経営上の重要課題となり、全社を挙げて取り組む企業が増加。**

気候変動対策が  
企業経営上の重要課題に



【従来】

- 気候変動対策 = コスト増加
- 気候変動対策 = 環境・CSR担当が、CSR活動の一環として行うもの



【脱炭素経営】

- 気候変動対策 = 単なるコスト増加ではなく、**リスク低減と成長のチャンス（未来への投資）**
- 気候変動対策 = **経営上の重要課題として、全社を挙げて取り組むもの**

# 企業にとっての脱炭素経営のメリット



## 1 優位性の構築

他社より早く取り組むことで「脱炭素経営が進んでいる企業」や「先進的な企業」という良いイメージを獲得できる。

## 2 光熱費・燃料費の低減

年々高騰する原料費の対策にも。企業の業種によっては光熱費が半分近く削減できることもある。

## 3 知名度・認知度向上

環境に対する先進的な取り組みがメディアに取り上げられることも。問い合わせが増えることで売上の増加も見込める。

## 4 社員のモチベーション・人材獲得力向上

サステナブルな企業へ従事したい社員数は年々増加。自社の社会貢献は社員のモチベーションにつながる。

## 5 好条件での資金調達

企業の長期的な期待値を図る指標として、脱炭素への取組みが重要指標化。

# 脱炭素経営に向けたステップ



事業者は、何をすればよいのか？

## ステップ（0）

### ○脱炭素経営について知る

- ・脱炭素化の必要性・意義・メリットの浸透

## ステップ（1）

### ○自社のCO<sub>2</sub>排出量の見える化：把握し、開示する

- ・中小企業のScope1、Scope2排出量の把握が、サプライチェーン全体の排出量把握につながる
- ・まずは、日商「CO<sub>2</sub>チェックシート」の活用を！

## ステップ（2）

### ○自社のCO<sub>2</sub>排出量の削減：削減方法を特定し、対策を打つ

- ・経営改善の追求と一体で → 省エネ（経営課題の解決with省エネ）
- ・脱炭素時代の競争優位を → エネルギー転換（ガス、再エネ、水素等）

特に中小企業については、ステークホルダーである各地の商工会議所、地方金融機関等＝「支援機関」へ相談・支援を仰ぎながら取り組むことが重要。

# 中小企業における脱炭素化促進に向けた環境省の取組



サプライチェーン全体での脱炭素化促進に向け、環境省では中小企業に対して、多様性のある事業者ニーズを踏まえて、**地域ぐるみでの支援体制の構築を行い、算定ツールや見える化の提供、削減目標・計画の策定、脱炭素設備投資**に取り組んでいく。

## 【脱炭素化への取組のステップ】

取組が評価され企業価値が向上、投融資や事業機会が拡大

### 取組の動機付け (知る)



### 排出量の算定 (測る)

#### 算定ツールや見える化の提供

- 支援人材が、中小企業を回る際に使う算定対話ツールの提供【R5新規】
- 事業者に対する温室効果ガス排出量の算定ツール(見える化)の提供【R5新規】※利用はR6からの予定



カーボンフットプリント (CFP) を活用した官民におけるグリーン製品の調達の推進と、その基盤となるガイドラインの整備

### 削減目標・計画の策定、脱炭素設備投資 (減らす)

事業者に対して、削減計画策定支援 (モデル事業やガイドブック等)

- ・ CO2削減目標・計画策定支援 (モデル事業・補助)
- ・ 削減目標・計画に係るセミナー開催、ガイドブック策定



事業者に対して、脱炭素化に向けた設備更新への補助、ESG金融の拡大等

- ・ 省CO<sub>2</sub>型設備更新支援 (1/3, 1/2 or CO<sub>2</sub>削減比に応じた補助)
- ・ サプライチェーン企業が連携した設備更新 (1/2 or 1/3補助)
- ・ ESGリス促進
- ・ 環境金融の拡大に向けた利子補給事業 (年利1%上限)
- ・ グリーントランスフォーメーション推進計画を実施するために必要な設備資金 (環境・エネルギー対策貸付)

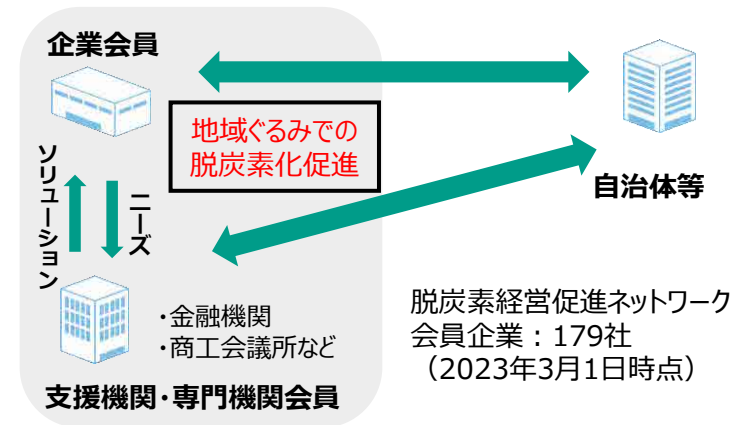


# 中小企業における脱炭素化促進に向けた環境省の取組（続き）

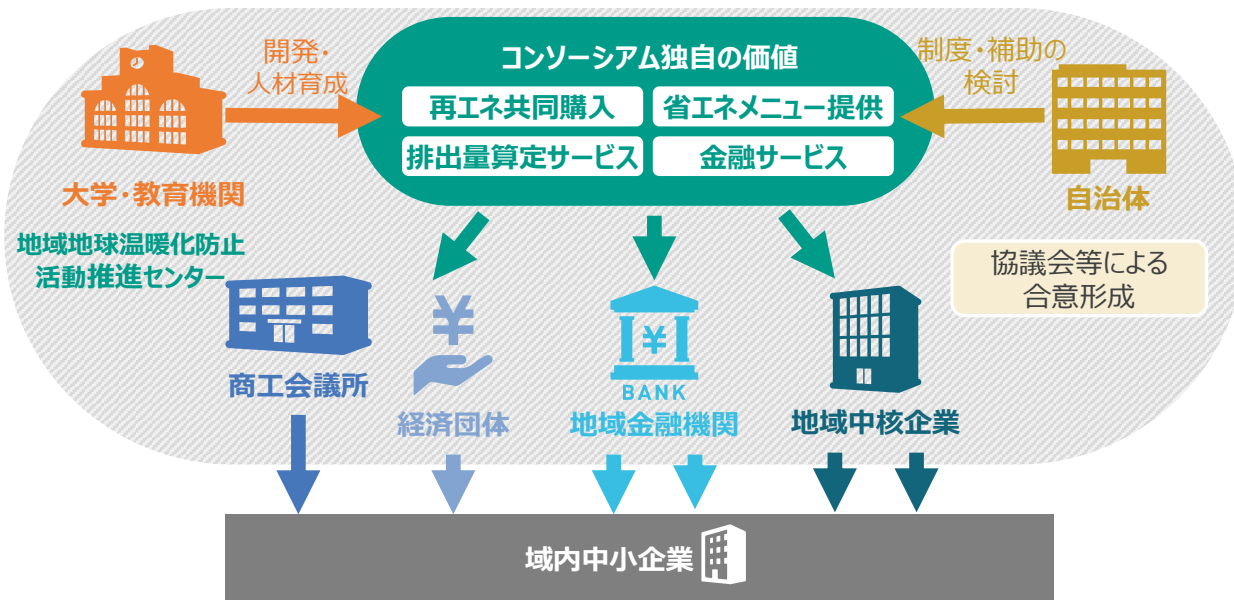
## 地域ぐるみでの支援体制構築

- 地域金融機関、商工会議所等の経済団体など(支援機関) の人材が、中小企業を支援する支援人材となるための説明ツールの提供やセミナー等開催による育成、人材バンクの活用を含めた専門機関とのマッチング支援（地域ぐるみでの支援体制構築に向けたモデル事業を実施）【R5新規】
- 環境省が認定する資格制度の合格者が中小企業への助言ができるよう、脱炭素化アドバイザー資格制度の認定事業を検討【R5新規】

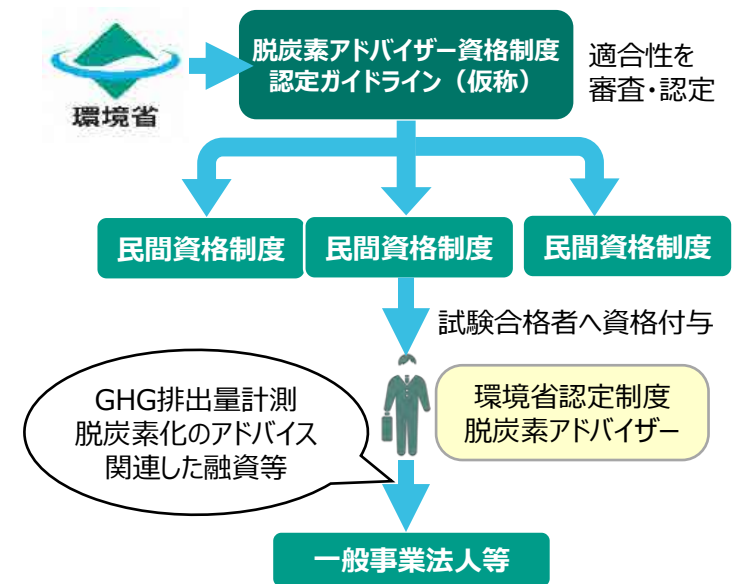
## Green Value Chain促進ネットワーク (2023年4月よりリニューアル)



## 地域ぐるみでの支援体制構築（イメージ）



## 脱炭素アドバイザー資格制度の認定（イメージ）





---

## 4. 足元からのネイチャーポジティブ

---

# 生物多様性とは：違いがあると何がよい？

すべての生物の間の変異性をいうものとし、  
種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む。

【生物多様性条約（1992年採択、1993年発効）第2条】

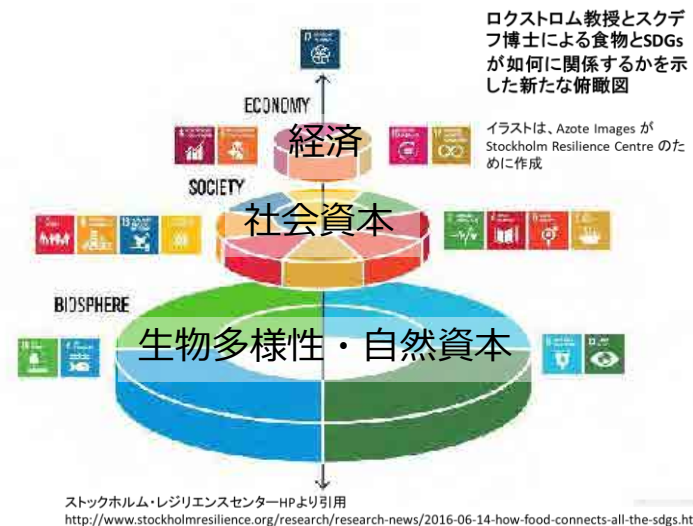
違いがあることで…

## ● 様々な恵みが得られる

- ・ 食材、薬
- ・ 木材、衣類（綿・絹・麻）
- ・ 景観（松林、ブナ林、田んぼ、里山）
- ・ 文化の源泉。癒しや閃き。
- ・ 洪水を防ぐ機能（森林、湿地）
- ・ 高潮を防ぐ機能（海岸防災林やサンゴ礁）

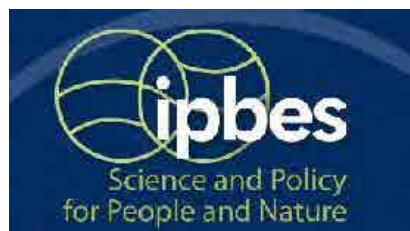


## ➡ 生物多様性・自然資本は 社会経済の基盤



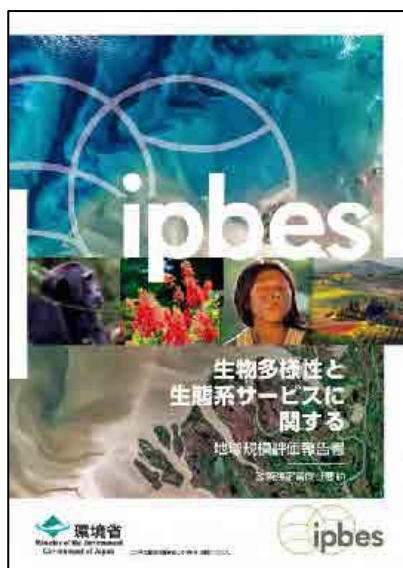
## ● 生産性・適応力・強靭性が増す ➡ 生物多様性とは、不確実性の高い“変化の時代のポートフォリオ”

- ・ 光合成、貯留、捕食、分解と様々な機能
- ・ 厳しい環境で育つ種、よく増える種等様々な特性
- ・ 病気に強い個体、寒さに強い個体等種内の様々な強み
- ・ 生態系全体の生産性が高くなる
- ・ 複雑に絡み合い、補完し合い、変化に強くなる
- ・ これにより生き延び、進化につながってきた



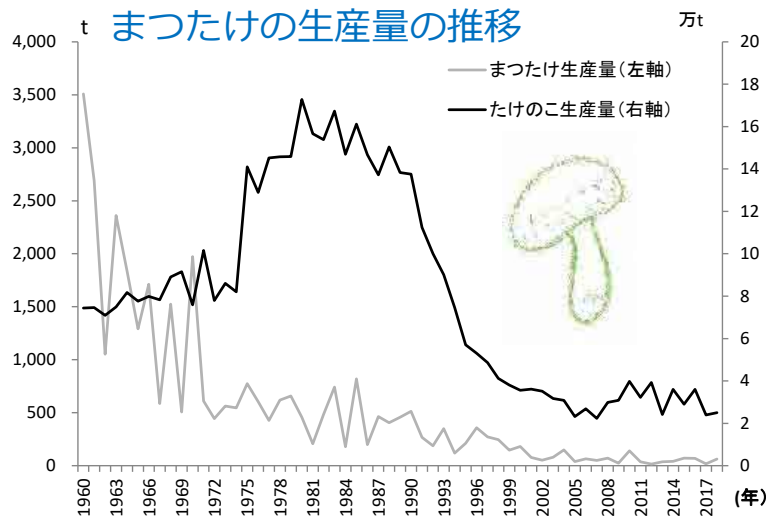
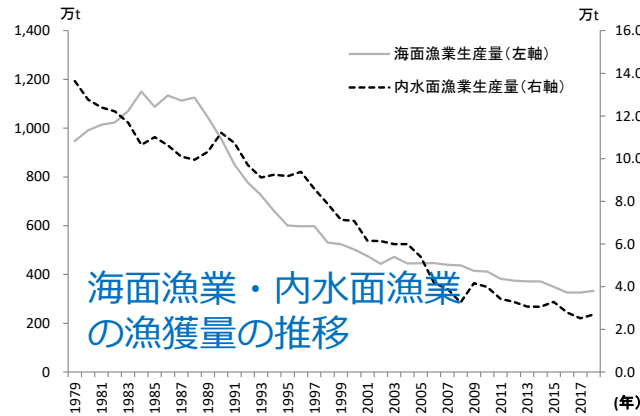
## 生物多様性と生態系サービスに関する地球規模アセスメント

2019年4月29日(月)～5月4日(土)に  
パリ(フランス)で開催された第7回総会で承認



- 地球上に800万種いる動植物のうち、**100万種が絶滅の危機**にある。
- 16世紀以降(1500年以降)に、少なくとも680種の脊椎動物が絶滅した。
- 過去1千万年の平均よりも数十倍～数百倍、絶滅の速度が加速している。
- 世界の**陸地面積の75%が著しく改変**され、海洋の66%が累積的な影響を受け、**湿地の85%が消失**した。
- 気温上昇を2度に抑えても、生物種の5%に絶滅リスクが生じ、サンゴ礁の面積は1%まで縮小する。
- 記録されている家畜哺乳類6190品種のうち559品種(9%を上回る割合)が2016年までに絶滅した。加えて、少なくとも1000品種が危機に瀕している。

# 日本の生物多様性、自然のめぐみを取り巻く現状



1945年以降、  
干潟の40%が消失。

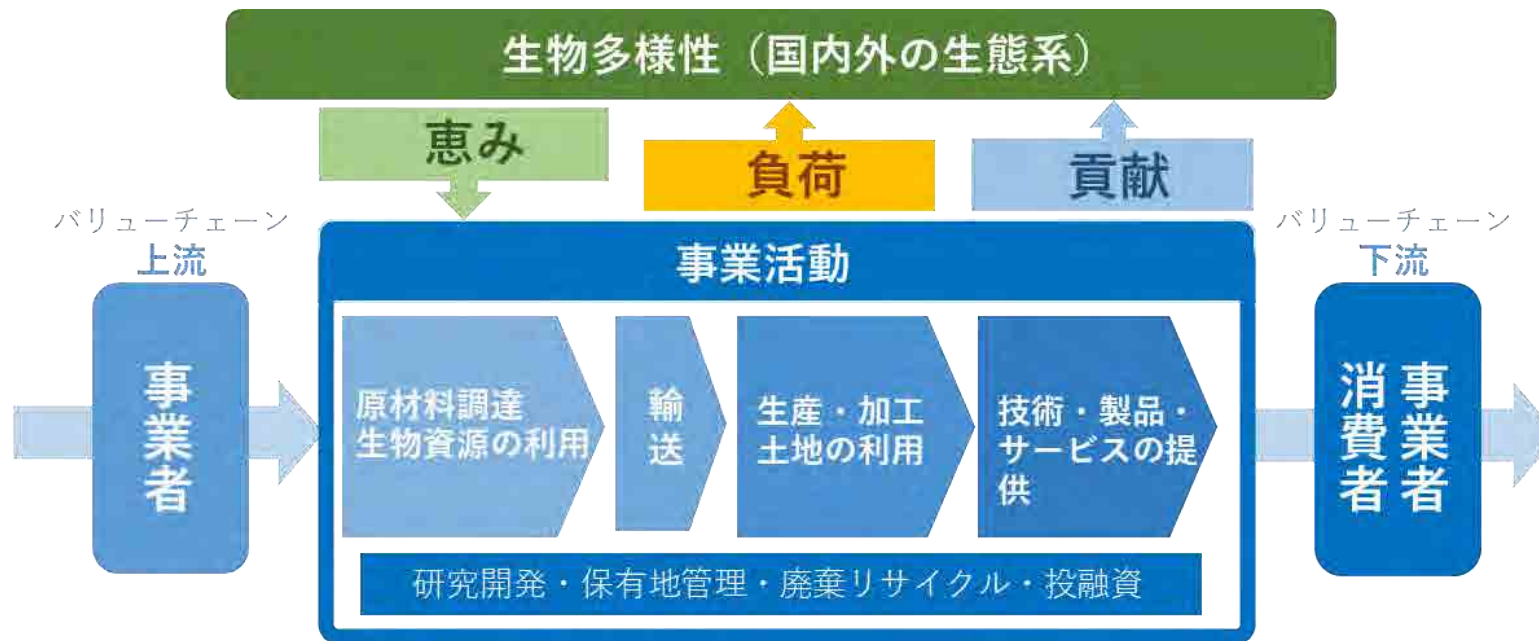


ウナギの漁獲量は  
かつての数%に減少

(1960→2016)

# 事業活動は生物多様性の安定無しには成り立たない

- 事業活動は国内外の「自然の恵み」に依存（直接的な原材料調達のみならず、生産・加工、商品・サービスの提供、輸送など）。
- その分、生物多様性に大きな影響も与えている。
- 他方、技術開発や製品・サービス等による市場の変革、生物多様性保全への貢献も可能。



# 企業による情報開示を巡る動き

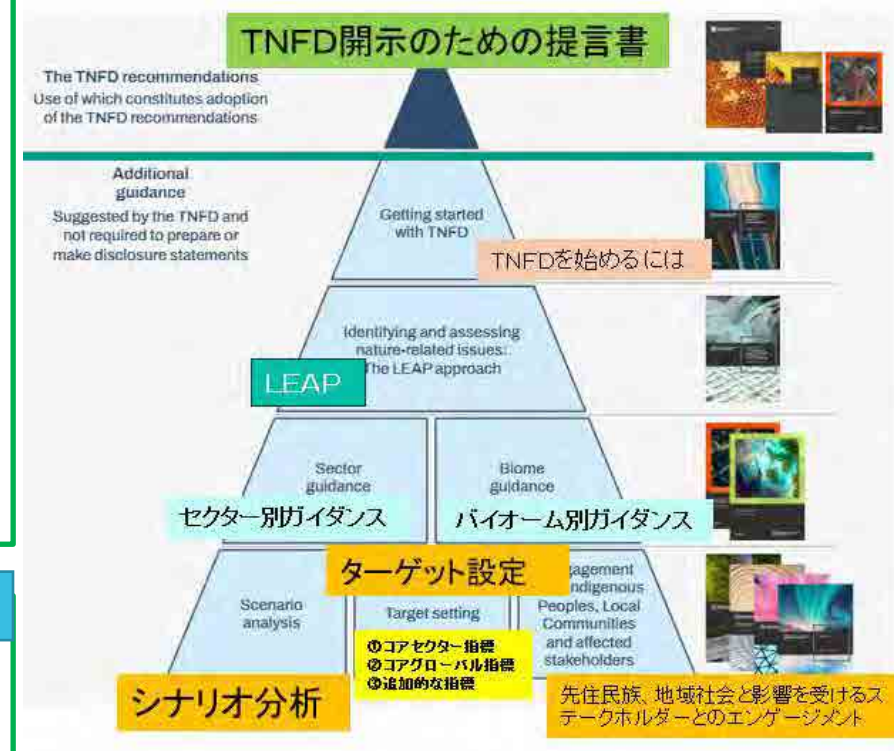
## TNFD (Task force on Nature-related Financial Disclosure) とは

- TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース) の自然版
- 生物多様性に係る**企業情報開示**を通じて、**資金の流れを自然にとってプラスにシフト**させることを目指す、**民主導**の枠組み
- 2019年1月に、世界経済フォーラム年次総会 (ダボス会議) で着想。
- オープンイノベーション方式で開発。2023年9月に最終提言 (ver1.0) が公表された。

## 自然関連課題を特定評価する「LEAP」アプローチ

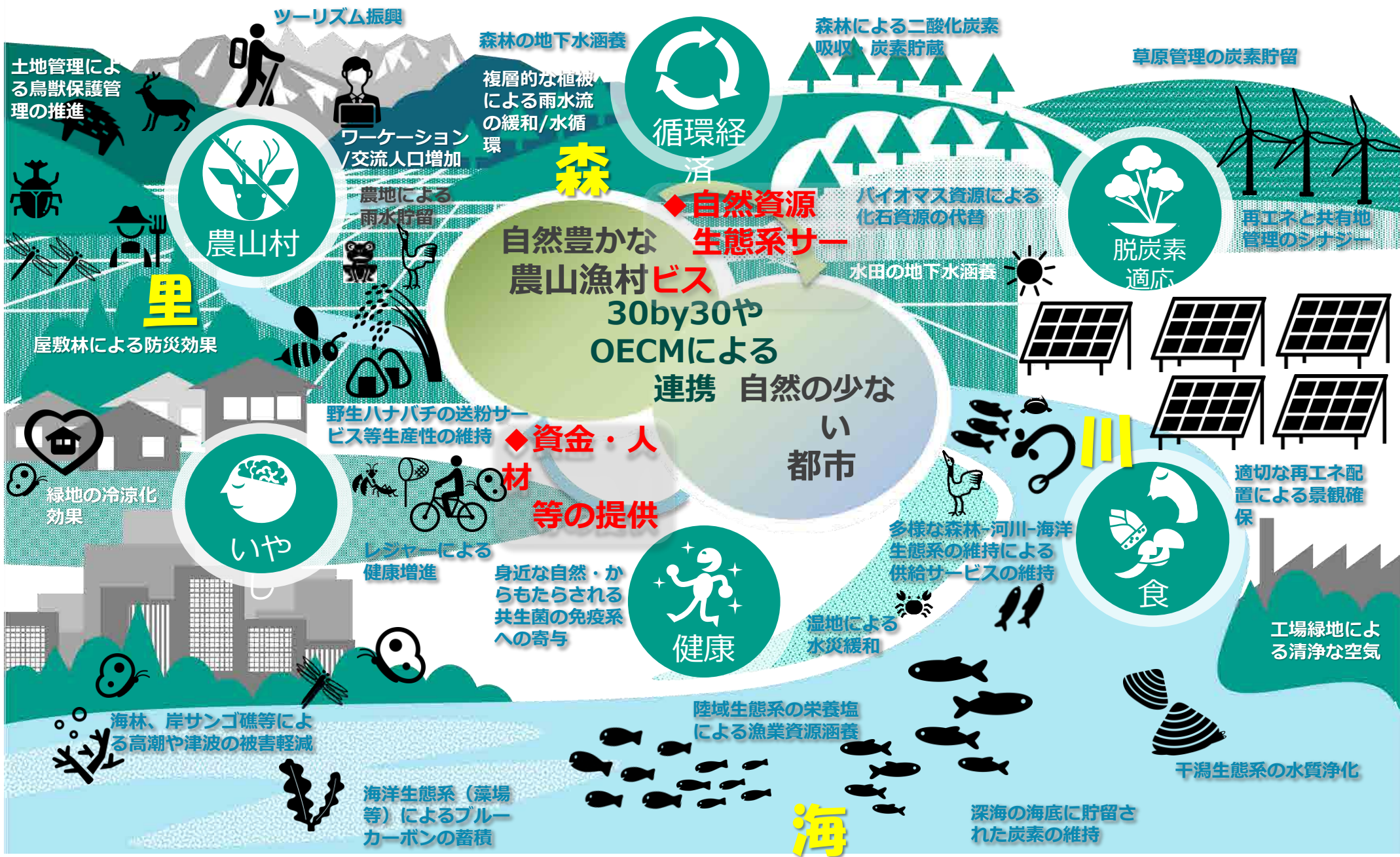
- ◆ Locate: **自然との接点**を発見する
- ◆ Evaluate: **依存と影響**を診断する
- ◆ Assess: **リスクと機会**を評価する
- ◆ Prepare: **開示**を準備する

Figure 2: TNFD recommendations and additional guidance



# 自然を活用した課題解決

# NbS: Nature based Solutions



# 買う → 生み出す

エネルギー  
衣・食・住

美味しい、楽しい、健康

生活用品（伝統工芸品）

つながり  
いごごち  
よろこび  
娯楽  
笑い  
かせぎ

生きがい etc



お国自慢再興

- ✓ 誇り
- ✓ 豊かさ
- ✓ 文化
- ✓ 個性

17 パートナースhipで  
目標を達成しよう





---

## 5. ローカルSDGsの実践 グッドライフアワード

---

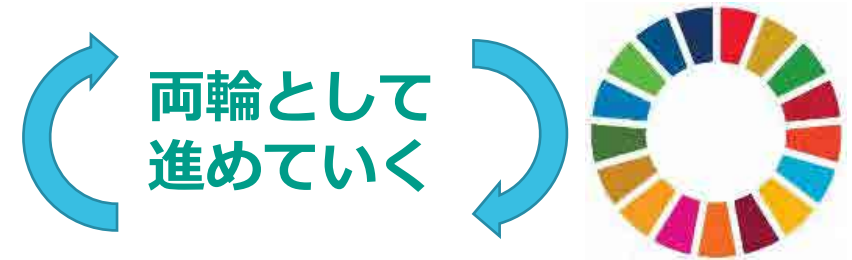
# 世界のSDGs達成も私たちの地域から、暮らしから

## 地域循環共生圏



= 地域のSDGs

: 地域の主体性のもと、  
パートナーシップで  
SDGsを実践



## グッドライフアワード

= 暮らしのSDGs

: 一人ひとり、一社一社が  
SDGsを取り入れる



# グッドライフアワード

- 「環境と社会によい暮らし」に関わる活動や取組を**大臣表彰**することで、**活動を応援**するとともに、優れた取組を発信
- 「みんなの力で社会は変わる！！」との理念の下、**草の根の国民参加型**の事業として実施
- 国内の企業・学校・NPO・自治体・地域・個人を対象に公募
- 10年間で366取組みを表彰 = ローカルSDGs事業の見本市



エコでソーシャルな活動

表彰  
普及・受賞活動の発展

持続可能な  
暮らし

環境問題

(資源・エネルギー、  
温暖化、自然破壊等)

× 同時解決

社会・経済問題

(地域創生、少子高齢化、  
医療福祉等)



「みんなで地球をまもろう！」～一人ひとりができることを考え行動しよう  
(神奈川県川崎市：みぞのくち新都市株式会社)



- ✓ 再エネ100%で営業
- ✓ 市内商業施設の中でごみのリサイクル率がワースト1になってしまったことを契機として取組みを開始
- ✓ ごみ処理運用の革新により、リサイクル率が、数年で約2倍に向上
- ✓ 省エネ化しながら再エネを導入することで、再エネコストを吸収しながら総コストを低減



ごみ保管施設をエコファクトリーとして改修し、分別を徹底。計量器を利用して、各テナントから排出されるごみの種類・量を把握するデータ管理を行い、焼却するごみを減量化し、リサイクルを推進。ごみの資源化による収益は、各テナントにすべて還元



電力使用量の約半分は空調。空調を中心とした動力系の使用量を減らすため環境省の補助金を利用しながら投資コストを抑えた上で、全体空調51台をインバータ化。またLED化など照明器具自体が環境に配慮



ノクティ全景



市民との交流の場として、屋上広場の緑化リニューアル。園庭がない地元保育園の運動会の場などとして無料提供している。また、地元組織と連携して、様々なイベントを開催しており、地域との交流に役立っている。

## ごみ処理の地産地消モデルの普及活動 ～溶融スラグを農業・海洋分野に活用～ (静岡県：日鉄エンジニアリング)

- ✓ ごみ処理施設であるシャフト炉式ガス化溶融炉の建設・操業を通じて、ごみの再資源化による最終処分場の延命化に取り組む
- ✓ 溶融スラグは主に路盤材等の土木用に再利用されているが、農業・海洋分野への適用拡大に挑戦
- ✓ 溶融スラグの肥料化を実現。安全性が長期に安定することも検証。一般廃棄物由来のけい酸質肥料としては全国初の登録



スラグ肥料で育てた酒米を使用した日本酒



排熱・電気の  
農業利用



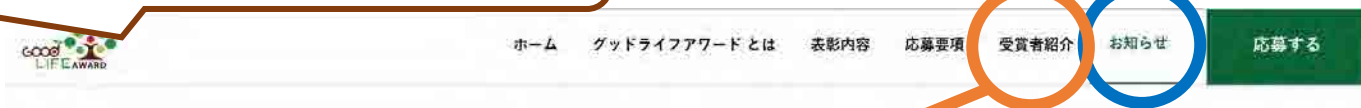
スラグによる  
土壌改良、藻場育成



# グッドライフアワードはSDGs事業の見本市

10年間で366取組みを表彰！

受賞者紹介 お知らせ



お知らせ

イベントでの  
プレゼンテーションを  
アーカイブ動画配信  
→ 受賞後の  
取り組みの発展



「福島ひまわり里親プロジェクト」は、南日本大学からの運動のシンボルとしてひまわりを育て、福島県に、そして日本全国に協会のネットワークを広げようとする取組です。2011年5月にスタートした取組は、すでに10万人以上が里親として参加し、5トン以上のひまわりの種が播種に集まりました。

活動のきっかけは？

東日本大震災で仕事が減った福祉作業所への仕事として

第1回グッドライフアワードで福地さん(左)とグッドライフアワード実行委員会(右)「福島ひまわり里親プロジェクト」。活動を行っている福島県南相馬市南相馬町にある、福地さんの子ども家庭福祉センターが福地さん(左)と、2011年3月に発生した東日本大震災では、親子の別居が深刻な被害を受け、避難生活を送る子どもたちを支援する活動として、活動のきっかけとなりました。

受賞取り組みを取材  
→ 記事にして、  
取り組みのポイントを紹介



持続可能なまちづくり = 共生圏づくりには

# 行政と民間の協働と、 そのための“協働ガバナンス”が必須

EPOでは行政と民間の橋渡しのお手伝いをしています！

## 【対話】

- ✓ 人の意見を傾聴する
- ✓ 多様な意見があることを認め・否定しない
- ✓ 自分の言葉で話す
- ✓ 意見を戦わせる「議論」ではない

## 【成果の確認】

- ✓ 一緒にやったらできるとやる = 協働
- ✓ 小さな成功も共有
- ✓ ワクワク感とやりがいUP

## 【信頼関係の構築】



## 【共通の理解】

- ✓ 目標・ビジョン・ありたい未来
- ✓ 地域の多様な課題とそれらの関係
- ✓ やれたらいい事・やりたい事
- ✓ お互いの強み弱み

## 【一人一人の自分事化】

組織内の縦割りを超えることも大切！

詳しくは、環境保全のための政策協働ガイド：

[http://www.geoc.jp/content/files/japanese/2018/02/seisakukyoudo\\_guide2017.pdf](http://www.geoc.jp/content/files/japanese/2018/02/seisakukyoudo_guide2017.pdf)